

2025年12月3日
日鉄物産システム建築株式会社
代表取締役社長 宇野 智

2025年度上期受注実績について

当社の2025年度上期(2025年4月～9月)受注実績が200.6億円と初めて200億円の大台に到達し、過去最高を更新。対前年比42%増と大幅な伸びを達成し、受注延床面積も268,306m²(対前年比28.9%増)と過去最高を更新した。

地域別では東日本ブロック(北海道、東北、関東、新潟)が対前年比68.6%増の108億と好調に推移。半導体関連の大型案件や物流倉庫、危険物倉庫などの受注が全体の成長に大きく貢献した。また、2019年から販売を開始した自由設計型システム建築「TREO」に規格性を持たせた「SUMISYS-NEO」が受注好調で、全体受注額に占める割合は70%(対前年比60%増)に達し、受注拡大の原動力となった。

下期は積みあげた工事案件の稼働状況を注視しながらの受注活動が必要になることから、通期においては受注高350億円程度になる見通し。

現在の市場環境として、建築主の設備投資意欲は依然として旺盛だが、深刻な人手不足と資機材費の高騰により、工場や倉庫を「建てたいが建てられない」状況が続いている。この人手不足という社会課題を解決する有効な手段の一つが、工期を約25%短縮できるシステム建築であると当社は考える。

当社は日本製鉄グループの一員として、高品質な鋼材供給から設計・施工まで一貫した体制を構築。システム建築の工期短縮効果と、日鉄グループの総合力を活かしながら、システム建築会員を初めとした全てのステークホルダーとのパートナーシップにより、人手不足に直面する建設業界と、設備投資を必要とする企業の双方に貢献していく。

今後も、全国3ブロック体制(東日本・中日本・西日本)とプロジェクト営業チームによる全社横断的な営業活動により、引き続き市場ニーズに迅速に対応し、特に、冷凍冷蔵倉庫や危険物倉庫など、専門性の高い分野での受注拡大を目指すとともに、システム建築の普及を通じて、持続可能な建設業界の発展に貢献していく。

以上